

複式1・2年 国語科学習指導案

I組 第1学年 男子4名 女子4名
第2学年 男子4名 女子4名 計16名
指導者 石 川 雅 仁

- 1 単 元 こえにだして、たのしくよもう (教材「はなのみち」光村1年上)
お話を読んで、かんそうを書こう (教材「スイミー」光村2年上)

2 単元について

(1) 単元の位置とねらい

(第1学年)

この期の子どもたちは、教材「おはなしよん」等の学習で、挿絵を手掛かりにして物語等を楽しみながら、場面の様子を想像する能力や、興味をもって読み物を読もうとする態度を身に付けつつある。また、自分が想像したことを伝えたり、もう少し長いお話を読んだりしてみたいという願いをもっている。

そこでここでは、挿絵と文を対応させて、場面の様子等について想像を広げながら読む能力を身に付けさせたい。また、易しい読み物に興味をもって声に出して読む態度を身に付けさせたいと考え、本単元「こえにだして、たのしくよもう」(教材「はなのみち」)を設定した。

この学習は、内容や文章のリズムに注意して音読しながら、場面の様子について想像を広げながら読む教材「おむすびころりん」へと発展するものである。

(2) 指導の基本的な立場

教材「はなのみち」は、くまさんが袋の中身をなくしてしまうものの、春になり花の一本道ができるというという童話である。話の最後で袋に入っていたものが分かり、失敗したと思ったことが好結果を生んだという展開の面白さが味わえる。また、本教材は、くまさんの言動を中心に4場面構成されており、それぞれの場面に簡単な主述のある文と親しみやすい挿絵が添えられている。文と挿絵を対応させたり、挿絵と挿絵を比較させたりすることで、想像を広げながら読むことができる教材である。

そこで本単元では、場面の様子等について想像を広げさせるために、動物たちの表情や様子を手掛かりに会話や気持ちを考えさせ、本文に加えながら読み進めさせるようにする。

また、想像したことや感想を伝える楽しさを味わわせるために、第1学年では想像を広げたことを声に出して読んで伝える紙芝居作りを、第2学年では自分の感想を加えて伝える紙芝居作りを言

(第2学年)

この期の子どもたちは、第1学年の単元「本はともだち」等の学習で、お話の好きな部分を友達に紹介する活動を通して、易しい読み物に興味をもって読もうとする態度を身に付けてきている。さらに、自分が好きなお話から読み取ったことを基に、詳しく紹介したいという願いをもっている。

そこでここでは、好きなところや作品のもつよさについて感想をもち、場面の様子について想像を広げながら読む能力を身に付けさせたい。また、楽しんで読書し、進んで好きなお話を紹介しようとする態度を身に付けさせたいと考え、単元「お話を読んで、かんそうを書こう」(教材「スイミー」)を設定した。

この学習は、登場人物の行動を中心に想像を広げながら読んで紹介文を書く単元「本はともだち」へと発展するものである。

教材「スイミー」は、スイミーが仲間と力を合わせ、知恵と勇気で大きな魚を追い出し自分たちの力で平和な暮らしを取り戻すという話である。仲間のためにできることを考え、行動し、そして成し遂げていく主人公の言動に共感できる。また、本教材は、スイミーの行動に沿って5場面構成されており、その目を通して美しく生き生きとした海の生き物たちの様子を描いている。体言止めや倒置法、比喩表現などに着目させることで、場面の様子について想像を広げて読むことができる教材である。

そこで本単元では、場面の様子等について想像を広げさせるために、動物たちの表情や様子を手掛かりに感想をもたせ、本文に加えながら読み進めさせるようにする。

語活動として設定する。

具体的にはまず、教師自作の紙芝居の鑑賞を導入段階で同時に行い、想像を広げたり感想を盛り込んだりする紙芝居作りへの興味・関心を高める。また、終末段階で自作の紙芝居を異年齢集団で発表し合うことを確認することで、教材文を使った学習の必要感を高める。

そして、場面の様子の違いをとらえた発言を本文に加えて音読することで、詳しいお話ができることに気付かせ、紙芝居を作るという単元のめあてをもたせる。

次に、紙芝居作りを進めることで、想像を広げながら各場面の読み取りを行う。挿絵に描かれているものから気付いたことと文を対応させ、場面や人物の様子について想像を広げさせながら、毎時間1枚の紙芝居ができるようし、発表会に向けて音読練習をする。

終末では、まとめたものを異学年で発表し合い、意見交換を行わせ、それぞれの学習に対する成就感や達成感を味わわせたい。

これらの学習を通して、挿絵や本文、自分がもった感想から想像を広げて読んだり、それを伝え合ったりして学び合うよさや楽しさを味わうとともに、異年齢集団のかかわりのよさを実感することに結びついていくと考える。

(3) 子どもの実態（調査人数及び調査方法 1年生8名:面接法、2年生8名:面接法及び質問紙法）

本学級の子どもたちが、本単元の学習についてどのように受けとめ、どのような興味や関心をもっているかを調査した結果は次のとおりである。なお、()内の数字は人数を示す。

調査項目	第1学年	第2学年	調査項目
①初発の感想	3の場面 ・袋に穴が空いていて、中のものがなくなった (3) 4の場面 ・どうして風が吹くと一本道が出来るのか(1) ・お花がたくさん咲いて、動物たちが楽しそう (2) ・ふくろには種が入っていた (2)	1の場面 ・スイミーは泳ぐのがはやい(1) ・小さな魚の兄弟たちが楽しく暮らしていた (2) 2の場面 ・小さな赤い魚たちが食べられてかわいそう (3) ・スイミーがかわいそう (5) 3の場面 ・スイミーが元気を取り戻してよかった (1) 4の場面 ・小さな魚の兄弟たちに会えてよかった (2) ・スイミーはどのくらい考えたのか(1) 5の場面 ・スイミーは勇気がある (1) ・力を合わせて、大きな魚を追い出したところ(7)	①初発の感想 (複数回答)
②音読の実態	○音読 (字が読める) ・できる (7) ・できない (1) ○語のまとまりに気を付けた音読 ・語のまとまりに気を付けて読める (5) ・語のまとまりに気を付けてゆっくり読める (2)		
③紹介したい相手 (複数回答)	・家族 (3) ・友達 (4) ・お相手さん (3)	・家族 (2) ・友達 (4) ・お相手さん (5)	②紹介したい相手 (複数回答)
④紹介の方法 (複数回答)	・読んであげる (3) ・文と絵を見せてあげる (4) ・お話を覚えて教える (1)	・劇で紹介する (2) ・紙芝居で紹介する (3) ・音読をして紹介する (3)	③紹介の方法 (複数回答)

子どもたちは全員初発の感想をもち、特に3と4の場面に興味を持っている。袋の中身に気付いていない子どもがいるので、挿絵や叙述を結び付けて場面の様子をとらえさせたい(①)。ひらがなをしっかりと読めない子どもには、ひらがなを読めるようにするとともに、挿絵を手掛かりに読めるように指導する必要があると考える(②)。読書意欲や表現意欲を高めるために、これらの相手意識をより高めることが必要である(③)。どんな紹介の仕方があるのか分からない子どもが多いので、今回は紙芝居による紹介の仕方を指導していきたい(④)。

そして、自分の感想を書き加えて紹介することで、詳しくお話を詳しく紹介することができることに気付かせ、紙芝居を作るという単元のめあてをもたせる。

次に、紙芝居作りを進めることで、感想をもちながら教材文の各場面の読み取りを行う。場面の様子を表した挿絵や効果的な表現などから気付いたことを基に、感想をもてるようにする。さらに、その経験を基に、他のお話で紙芝居を作って、発表会に向けて準備を進める。

子どもたちは、特に5の場面でのスイミーの活躍に注目していることが分かるが、比喩表現等の叙述のおもしろさにあまり気付いてない。場面の様子が想像できる叙述に着目させたい(①)。家族や友達などに紹介したいと考える子どもが多く、特にお相手さんの1年生に教えてあげたいという上級生らしい気持ちが強い。これを読書意欲や表現意欲を高めることに結びつけさせ、相手意識をもって学習に取り組めるようにしたい(②)。これまでの学習から紙芝居で紹介したい子どもが多いと考える。自分の感想を入れ込んだ紙芝居作りを行うことで、表現の幅を広げたい(③)。

(4) 指導上の留意点

単元の展開に当たっては、互いの考えが高まるように同学年や異学年のかかわりを大切にしながら指導していきたい。

ア くまさんが見付けた袋には穴が開いていて中の種がなくなってしまう、春になって花の一本道ができるというストーリー展開の面白さに気付かせるために、各場面の挿絵と叙述を提示して想像を広げさせる。

イ 場面の様子について想像を広げて読ませるために、叙述と挿絵に想像したことを付け加えることができる紙芝居を作る活動を行わせる。

ウ 自分の学習を振り返らせ、学習に対する成就感や達成感を味わわせるために、自ら作成した紙芝居の発表を通して、同学年や異学年で交流させる。

エ 単元の特性や子どもの実態から、学年別指導を行う。かかわることのよさを実感させるために、「話し合い方」を生かせるガイド学習を行い、各学習過程において書かせる活動を積極的に行わせる。

ア 小さな力でも知恵と勇気をもって、協力すれば大きなことでも成し遂げられるという爽快感のあるストーリー展開に気付かせるために、各場面の挿絵と叙述を提示して想像を広げさせる。

イ 場面の様子について想像を広げて読ませるために、自分の感想を付け加えることができる紙芝居を作る活動を行わせる。

3 目 標

(1) 場面の様子に関心をもち、想像を広げたことを紙芝居にまとめて、声に出して友達に読むことで紹介しようとするができる。

(2) 野原や登場する動物の様子に着目しながら各場面の挿絵を比較して、場面の様子の変化をとらえることができる。

(3) ア 挿絵と叙述とを対応させて、場面の様子や動物たちの様子について想像を広げ、紙芝居に付け加えたり、楽しく読んだりすることができる。

(1) 自分の好きな本の人物の行動や周りの様子に関心をもち、紙芝居にまとめて紹介しようとしたり、興味をもって易しい読み物を進んで読んだりしようとするができる。

(2) 各場面の挿絵と挿絵で比較して気付いたことと共通する叙述を結び付けることができる。

(3) ア 場面の様子に想像を広げながら読んだことを友達に分かりやすく紹介することができる。

イ 学習したことを紙芝居にまとめ、発表する活動を通して、学習を振り返るとともに、同学年・異学年間でのかかわりのよさを実感することができる。

4 指導計画（第1学年：全7時間、第2学年：全15時間）

過程	学習課題・主な学習活動（第1学年）	学習課題・主な学習活動（第2学年）
つかむ・みとめ	1 単元目標の設定を設定する。 「はなのみち」の初発の感想 紙芝居をつくってみたい。 教師自作のモデル紙芝居の鑑賞 せかいに ひとつだけの かみしばいの はっぴょうかいを しよう。 「スイミー」の初発の感想 自分の考えや感想を伝えたい。 紙芝居にどんなことを入れれば、世界にひとつだけの紙芝居になるのだろうか。	
しらべる	2 場面ごとに動物たちの様子などについて想像を広げながら読み、紙芝居を作成する。（本時5/7） - 教材文（行動描写、会話文）を視写する。 - 挿絵に着色する。 - 想像を広げて読んだことを紙芝居に付加する。 3 紙芝居の音読練習をする。	2 教材文を場面ごとに読み取り、感想を付加した紙芝居を作成する。 - 教材文（行動描写、会話文）を視写する。 - 挿絵を描く。 - 自分の感想を紙芝居に付加する。 3 自分が選んだ作品を場面ごとに読み取り、感想を付加した紙芝居を作成する。（本時8/15） - 自分が選んだ作品を視写する。 - 挿絵を描く。 - 自分の感想を紙芝居に付加する。
ふかめる		
ふりかえる・いかす	4 合同発表会をして、意見や感想の交流を行う。 - 話し合いの観点の明確化 - 紙芝居にまとめたりする際に大切なことの発表 ・ 同学年・異学年間での交流 ・ 感想の交流 絵をよく見たり、比べたりするといね。 2年生のように発表したいな。 もっとお話を楽しく読んだり、伝えたりしたいな。 1年生の紙芝居は分かりやすかったよ。 自分の感想を入れると、どうしておもしろいか伝わるね。	

5 本 時(第1学年：5／7，第2学年：8／15)

(1) 目 標

「あたたかいかな」という季節を表す言葉や動物たちの様子を描いた挿絵に着目して、春になった様子や動物たちの喜ぶ様子について想像を広げ、紙芝居を作ることができる。

スイミーが言ったことややったことを表す叙述や場面の様子が描かれた挿絵に着目して、自分の感想をもち、その感想を入れた紙芝居を作ることができる。

(2) 本時の展開に当たって

1年生には、場面の様子について想像を広げさせるために、叙述や挿絵から花の一本道ができた理由を考えさせる。

2年生には、自分なりの感想をもたせるために、スイミーに言ってあげたいことを考えさせる。

学年別指導の中で、ガイドの司会による話し合いを中心とした授業を行う。それぞれの学年で、友達の発表を聞いてよかったところを話し合わせる。その際、自分たちで活動しやすいように、書き方のモデルや発表の仕方を示す。また、自分の意見をもって活発に話し合わせるために、自他の考えや感想を書かせる。また、学習の終末段階では、異学年間でも学習の振り返りを行い、発揮することができた学びを深める「学び方」を称賛・価値付け、相互に考えを吟味したことでより高まった考えを出すことにつながったことに気付かせる。

(3) 実 際

主な学習活動（第1学年）	教師の位置（分）	主な学習活動（第2学年）
1 前時を振り返り、学習課題を確認する。 はなの いっぱんみちが できたとき、どうぶつたちはどんな はなしを しているのかな。 2 学習の進め方を確認する。 3 動物たちの会話を想像する。 (1) 書き方のモデルを基に、動物が話をしていることを想像して小黒板に書く。 「〇がいました。『～』』という形で、文を書くんだね。 (2) 書いたことを発表し合う。 くまさんが言いました。「袋の中には、花の種がはいっていたんだね。」 かえるさんが言いました。「春になって温かくなって、オタマジャクシもできてきたよ。」 りすさんが言いました。「くまさんのおかげで、きれいな花が咲いたね。」 4 動物たちや場面の様子を話し合う。 動物たちはどうして喜んでるのかな。 【叙述から】 ・「あたたかいかな」 ・「はなのいっぱいみち」 【挿絵から】 ・動物たちの表情 ・野原の様子 春になって、花の一本道ができたから、動物たちは喜んでるんだね。 5 話し合ったことを基に、学習のまとめをする。 「はるが きて、はなの いっぱんみちが できてうれしいね。」と、はなしを している。 6 紙芝居を仕上げ、発表会に向けて練習する。 - 動物が話をしていることを書き入れる。 - 挿絵に色を塗る。 - 音読の練習をする。 7 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを発表し合う。 場面が変わっても、やっぱり動物が言ったことを考えると楽しく読めるな。(強固) 友達の発表の仕方が、声が大きくていいな。僕も今度は大きな声で発表したいな。(修正)	2 4 4 15 7 7 6	1 前時を振り返り、学習課題を確認する。 大きなさかなを おいだしたばめんで、スイミーに 言ってあげたいことは なにかな。 2 教材文を微音読して、これまでの学習を振り返る。 3 学習の進め方を確認する。 4 スイミーたちの言動についての感想をもつ。 (1) 書き方のモデルを基に、自分なりの感想を小黒板に書く。 スイミーたちに言ってあげたいことと、どうして言いたいかの理由を書くのね。 (2) 書いたことを発表し合う。 スイミーが小さい魚たちに、いろいろなことを言うところが好きだな。どうしてかと言うと、スイミーが一生懸命だったからだよ。 スイミーたちが力を合わせて、大きな魚を追い出すところがいいな。どうしてかと言うと、一匹の魚みたいに泳げるようになったからだよ。 5 場面の様子について話し合う。 どうしてスイミーは目になろうと言ったのかな。 どうしてスイミーたちは、大きな魚を追い出したのかな。 黒いスイミーが目になることで、本物の魚に見えるようになって考えたからだよ。(スイミーの知恵) 「あさ」も「ひる」も泳いで、大きな魚を驚かせたからだよ。(スイミーたちの協力) スイミーの知恵とみんなの協力のおかげで、大きな魚を追い出すことができたんだね。 6 話し合ったことを基に、学習のまとめをする。 スイミーの考えをきいて、みんなが力を合わせたから、大きなさかなをおい出したことに、びっくりしたよ。 7 紙芝居を仕上げ、発表会に向けて練習する。 - 自分の感想を書き入れる。 - 挿絵を描く。 - 音読の練習をする。 8 本時の学習を振り返り、自分や友達のよかったところを発表し合う。 △さんが発表したことを、わたしの紙芝居にも入れてみたい。(付加)